

⑤ チャールズ・フィリップス 著；井上廣美 訳

『イギリスの城郭・宮殿・邸宅歴史図鑑』

(原書房)

イギリスを舞台としたドラマや映画のなかでは、とりわけコスチュームものでは必ずと言っていいほど、壮麗なお屋敷が登場します。現存する本物の城や大邸宅で撮影される映像は、スタジオ撮影やデジタル画像では表現できない、実在するものの気迫のような重厚さを感じてしまいます。

それにしても、イギリスにはなんと城や宮殿、大邸宅が多いのでしょう。本書には数々の物件が美しい写真とともに紹介されています。ドラマや映画のロケ地として使われた情報がないのが少し残念ですが。(N.T.)

523.33 ||Phi

⑦ 小笠雅章 著

『庭師とあるく京の隠れ庭』

(平凡社)

京都には多くの寺院が存在しており、寺院の中にある庭も見所の一つです。しかし、有名な寺院だけでなく、一般の町屋や店にも京都特有の庭は存在します。

本書は庭師である著者が、そうした庭をたずね、それぞれの庭の本質を解き明かしていく内容となっています。

紹介されている庭の中には見学できる所もあるので、京都の観光名所から離れて、隠された庭をたずねる、あるいは自分で気になる庭を探し出し、その庭に込められた意味について思いを巡らせてみるのも楽しいかもしれません。(F.Y.)

629.2162 ||Ono



⑥ 小野田滋 著

『関西鉄道遺産：私鉄と国鉄が競った技術史』

(講談社)

大阪方面から通学されている皆さんがよく利用している阪急京都線。西京極駅を過ぎて西院駅に着く手前で地下鉄道となりますが、実は関西で最初に作られた地下鉄道だという事を皆さんはご存じでしょうか？

本書は関西の鉄道遺産を網羅した一冊で、明治期に建築され現在も使われているものから、既にその役目を終えた建造物まで紹介されています。皆さんに馴染みの深い駅や日頃なんとなく目にしている橋やトンネルなどもたくさん登場しますので、その歴史に触れてみてはいかがでしょうか。(H.M.)

686.216 ||Ono

⑧ ルーシー・レスブリッジ 著、堤けいこ 訳

『使用人が見た英国の二〇世紀』

(原書房)

21世紀の現在でも貴族や階級社会が残る英国。ドラマなどでも描かれる華やかな貴族の生活は、原題の「サーヴァント」と言われる多くの使用人達に支えられていました。本書では、そういった「階下の人々」の視点から、20世紀という激動の時代のもう一つの英国史を浮き彫りにしています。

使用人というと、多くの人が貴族の大邸宅で働く華やかな世界を想像しがちですが、実は最貧困層を除いてほとんどの家庭に使用人がいたという事実。彼らの仕事や制度、その変遷が書かれているこの本を読めば、「執事」や「メイド」のイメージが変わるかもしれませんよ。(N.T.)

366.8 ||Let